

権利擁護・ケア向上推進委員会の取り組みに関するご報告

～虐待事案発生に伴う再発防止策と組織改善への誓い～

1. はじめに：事案発生への深い反省

この度発生いたしました虐待事案につきまして、被害者の方々、ご家族の皆様、関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。法人として本件を重大に受け止め、二度とこのような事態を招かぬよう、組織全体で再発防止と信頼回復に全力を尽くしてまいります。

再発防止とケアの質の向上を目指し設置された「権利擁護・ケア向上推進委員会」の活動概要、現在の進捗、および今後の展望についてご報告いたします。

2. 権利擁護・ケア向上推進委員会の設置

虐待事案の発生を機に再発防止と利用者様の権利擁護、ケアの質向上、そして地域社会からの信頼回復を最重要課題と位置づけ、「権利擁護・ケア向上推進委員会」を設置いたしました。

社会的信頼の回復と、健全で持続可能な組織運営体制、および質の高いケア提供体制を確立することを目指します。



<委員会の特徴と意義>

◆外部委員の導入

第三者の客観的な視点を取り入れ、助言・監視を行うことで透明性と質の向上を図ります。ご家族からも委員としてご参加いただき、利用者様やご家族の心情に寄り添ったご意見を頂戴しています。

◆PDCAサイクルによる継続的改善

実行計画を立案し、計画・実行・評価・改善のPDCAサイクルを回すことで、取り組みの効果検証と是正を継続的に行います。この仕組みは、本委員会の活動終了後も組織の恒常的な改善体制として維持されます。

◆建設的な意見形成の場

不平不満を改善のきっかけと捉え、職員が建設的な意見を出しやすい環境を確保し、組織全体の改善に繋げています。

3. 委員会の活動を通じた職員意識の変化

事案発生当初、職員の中には「私は関与していない」「組織や体制が悪い」といった、受け身かつ他責的な意見が見受けられました。利用者様への申し訳なさは強く感じつつも、「何をすれば改善になるのか分からない」といった戸惑いの声も多くありました。

ですが、外部委員からの率直な意見や提言を受ける中で、職員一人ひとりが「自施設で起きたこと」としての受け止めが促進されました。委員会メンバーを中心に、再発防止への取り組みに対し、積極的な姿勢が見られるようになり、委員会活動全体が円滑に進んでいます。

「不満」ではなく「このような状況がある。検討したい」といった建設的な発言が増加するなど、職員間のコミュニケーションの質も向上しています。

互いの良い点を認め合うなど、組織風土の改善にも繋がっています。

4. 今後の取り組み

◆継続的な改善

委員会活動を通じて得られた教訓を活かし、具体的な再発防止策の実施、職員研修の強化、組織風土改革を継続してまいります。

◆透明性の確保

引き続き外部の視点を取り入れ、情報公開を積極的に行うことで、透明性の高い組織運営に努めます。

◆地域社会との連携

利用者様とそのご家族、地域社会の皆様からのご意見を真摯に受け止め、より良いケア提供体制を構築してまいります。

権利擁護・ケア向上推進委員会を中心とした全職員の取り組みを通じて、利用者様が安心して過ごせる環境、そして地域社会から信頼される法人となるよう、今後も改善努力を続けてまいります。

本活動及び再発防止に向けた対応は引き続きお知らせさせていただきます。